

安全度チェックシート

採点方法

- ① 各項目について、「評価基準」を参考にして、「採点欄」に「0～5の6段階」で工場の実力値を評価する。
- ② 「重要度考慮点」には、「重要度」÷5×「①で付けた点数」を計算して記入する。
- ③ 全項目の「重要度考慮点」の総和が、100点満点中の実力値となる。
- ④ 83ページのように、レーダーチャートに③の結果を入れ、製造基盤の大きさを確認し、強化に役立てよう。

※評価基準を確認し、どうすれば現状より高い点がつけられるのか具体的に考察することが重要。

No.	重要度	評価項目	採点欄	重要度考慮点	評価点	評価基準
1	10	事故対策			5 3 1	労災・ヒヤリハットの発生に対し、なぜなぜ分析等により真の原因を追究し、確実な対策を講じている 労災・ヒヤリハットの発生に対し、なんらかの対策をとっている 労災・ヒヤリハットの発生に対し、対策はしているものの十分とはいえない
2	3	労災度数率			5 3 1	近年はまったく労災が発生していない 近年は労災度数率標準値以内 近年は労災度数率が標準値以上に高い
3	3	労災強度率			5 3 1	近年はまったく労災が発生していない 近年は労災強度率が標準値以内 近年は労災強度率が標準値以上に高い
4	5	ウィルス等の感染予防			5 3 1	ウィルス等の感染予防のため徹底的な対策、予防教育が十分にできている ウィルス等の感染予防のための対策ができている 必要と思われるウィルス等の感染対策を順次進めている
5	5	安全点検の仕組み			5 3 1	安全点検項目が整備され、定期的に確実な職場全体（工場内及び事務所）の安全点検がなされ点検記録がある 定期的に安全点検を行っている 必要に応じて管理者が感覚的に点検している
6	5	消火器、消火栓			5 3 1	消火器が適所・定位置に確実にあり、消火設備の周囲にはモノがおかれていない状態がキープできている 消火器が適所・定位置に確実にある 必要な消火器・消火設備がある
7	5	設備点検			5 3 1	設備の特性に応じて必要なメンテナンスが定期的に行われ点検者・点検内容の記録が確実に行われている 設備の特性に応じメンテナンスが行われている メンテナンス・点検等を行っていない設備がある
8	5	設備安全			5 3 1	設備上の安全対策（保護カバー、安全装置、フェールセーフ、フルプルーフ）が十分なされている 部分的に設備上の安全対策（保護カバー、安全装置、フェールセーフ、フルプルーフ）が不十分な箇所がある 設備上の安全対策（保護カバー、安全装置、フェールセーフ、フルプルーフ）がほとんどなされていない
9	5	設備・工具の取り扱い（運搬具含む）			5 3 1	設備・工具の特性に応じて、安全を考慮した誰にでも分かりやすい操作マニュアルがあり、作業者はいつでも法定・マニュアルに則した作業をしている 設備・工具の特性に応じた操作マニュアルがあり、作業者が理解している 設備・工具の特性に応じた操作マニュアルはなく OJT にたよっている
10	5	危険標示			5 3 1	危険注意のための標示が適所になされている 一部危険注意標示の剥がれや欠落がみられる 注意標示がほとんどされていない
11	2	避難経路			5 3 1	避難経路の案内図の最新版が常に誰にでも（来訪者含む）に分かるように目につきやすい各所に常に掲示されている 避難経路図の最新版が掲示されている

12	2	緊急連絡網の整備			5 避難経路図による案内はないが、避難経路の確保はできている 災害等の緊急事態に常に従業員の安否が確認できる体制が整備できている。 責任者、安否確認ルールが明確になっており、遅滞なく安否確認ができる状態にある。 3 災害等の緊急事態に従業員の安否が確認できる状態にある。 1 従業員の緊急連絡先が一元管理できている
13	2	転倒防止			5 転倒の可能性がある大きな機械や製品、危険物についてはすべて転倒防止がしっかりとできている 3 転倒の可能性がある大きな機械や製品、危険物については転倒防止ができている 1 転倒の可能性がある大きな機械や製品、危険物について転倒防止がしっかりとできているといえない
14	5	安全指標の見える化			5 労災・ヒヤリハットの発生をデータベース化し、要因・発生場所・発生時間・発生頻度・対策日・対策担当等が見える化できている 3 労災・ヒヤリハットの発生をデータベース化し、要因・発生場所・発生時間・発生頻度等が確認できる 1 労災・ヒヤリハットの発生をデータベース化はされておらず個別の措置となっている
15	5	ヒヤリハットの仕組み			5 ヒヤリハットが確実に報告される仕組み・ルールがある 3 ヒヤリハットが報告される仕組み・ルールがあるがあまり運用されていない 1 ヒヤリハットが報告される仕組み・ルールがなく、口頭による報告のみとなっている
16	5	安全（衛生）教育			5 現状の作業単位に合った安全・衛生マニュアルが整備され、定期的に安全・衛生教育が実施されている 3 安全・衛生マニュアルがあり、ヒヤリハットがあった場合の教育に使っている 1 作業単位の安全・衛生マニュアルはなく OJT による都度の教育となっている
17	3	無災害継続日数			5 無災害継続日数が毎日見える化されており、全員が意識している 3 無災害継続日数が毎日見える化されている 1 無災害継続日数が見える化できていない
18	5	所定外労働時間（早出、残業、休出）			5 過度な所定外労働がない職場である 3 所定外労働は発生しているが標準値内である 1 人によって所定外労働はが標準値を超えている
19	3	服装			5 作業者全員が決められた服装を守り、ヘルメット・保護眼鏡・マスク・安全靴等を必要に応じて必ず着用している 3 ほとんどの人が決められた服装を守り、ヘルメット・保護眼鏡・マスク・安全靴等を必要に応じて着用している 1 服装にみだれがある人が目立つ
20	5	休暇取得状況			5 休暇取得状況は標準値内である 3 休暇取得状況は人によって多少バラツキがあるが、概ね標準値内である 1 休暇がほとんど取られていない状況にある
21	2	温度			5 作業温度に対する社内基準があり、高温許容基準を超えた作業エリアに対しては、対策がとられている 3 温度に対する社内基準はないが、ある程度の工夫があり問題がない状態である 1 高温許容基準を超えた作業エリアがあり、対策が不十分である
22	2	騒音			5 60 デシベル以下が保たれており一般的な会話が常時成立する 3 一時的に 60 デシベル以上になることもあるが十分な対策がとられ、会話を妨害する程度ではない 1 常時 60 デシベル以上となっており、会話の成立しない職場になっている
23	2	照度			5 すべてのエリアが照度基準を満たしており作業しやすい環境にある 3 一部照度基準を満たしていないエリアがあり、改善が必要 1 全体的に照度基準を満たしていない
24	2	人間工学的作業			5 ほとんどすべての作業環境は人間工学的配慮がされている 3 人間工学的視点から一部改善が必要な作業がある 1 人間工学的配慮がほとんどなされていない
25	2	防災訓練			5 防災訓練は、年に 1 度以上全員参加で確実に行っている 3 防災訓練が年に 1 度行われている 1 防災訓練は形式化、形骸化している。説明のみで実践がない。
26	2	リスクアセスメント			5 リスクアセスメントを活発に行っている 3 リスクアセスメントを行っている 1 リスクアセスメントに取り組む計画を立てている段階にある